

松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第35号

発行 平成 21 年 5 月 25 日

袈裟は仏の心を身にまとうもの

法事の際にも輪袈裟をかけましょう

法事など法要のときに和尚が身につけるものに、袈裟(けさ)があります。起源は、お釈迦様やそのお弟子さまたちが身にまとっていた布のことで、この布の形を儀式化したものです。その大きさにより呼び方も違います。古くは両肩を含め全身を覆うように着用したということですが、「：偏(ひとえに)に右の肩をぬぎ、み手を合わせてひざまづき、仏足頂礼感嘆(ぶつそくちようらいかんたん)す：」とあるように、仏への崇拜と畏敬(いけい)の念を表すため、現在では右肩を出すようにして掛けます。また、袈裟は和尚だけが身にまとうものではありません。初盆を



迎えられる檀信徒さんには毎年、輪袈裟(わけさ：袈裟を簡略化したものに首に掛けられるようにしたもの)を授けています。また、先の妙心寺開山無相大師650年遠諱(おんき)法要では、参拝者に記念品として輪袈裟をいただきました。これは、きれいな若草色で、表面には妙心寺の紋章と「大

本山」「妙心寺」の文字が縫い込まれています。このように、檀信徒の皆さんの多くが輪袈裟を所有していらっしゃるはずですが、残念ながら箱に入れたまま大切に仏壇の中にお供えしてあったり、タンスにしまい込んでいらっしゃる方が少なくないようです。朝、あるいは夜にお仏壇に手を合わせられる時などには必ず輪袈裟をかけてほしいものです。ましてや法事には、和尚は袈裟をかけてお経をあげます。皆さんもぜひ輪袈裟をかけてお参りください。法要の時の大切な法服の一つなのです。輪袈裟を身に着けることにより身心ともに引き締め、より懇ろな供養となります。

大本山妙心寺の開山無相大師六五〇年遠諱大法会

五十年に一度巡り会える法縁に感謝

山陰東教区主催の遠諱団参に教区より総勢七四五名が参加



大本山妙心寺 開山無相大師 650年遠諱参拝記念 平成21年4月1日

妙心寺初代住職であった無相大師様の六五〇年遠諱法要(おんきぼうよう)の正当年を迎えた今年は、大本山妙心寺で春と秋の2回に分けて盛大な法要が執り行われています。

松禪寺が所属する山陰東教区(朝来市、豊岡市、養父市、美方郡新温泉町、鳥取市、八頭郡八頭町、全56ヶ寺で構成)では、4月1日を皮切りに総勢約745人が4班に分かれてこの法要に臨みましました。

松禪寺からは4月1日から一泊二日の旅程で14人が参加、総勢188人の参加でした。天気はあいにくの曇り空で、午前10時

半には龍安寺を拝観させていただきましたが、雨がポツポツと降り始めてきました。普段は拝観できない仏殿に案内されて説明を聞きました。その後は、みなさんそれぞれ有名な石庭を觀たり、広い境内を散歩されていましたが、寒さからすぐにバスへ戻る人も多くありました。

お昼前には妙心寺に到着。雨は本格的に降り始めました。最初に大方丈というところで昼食です。この法要のために用意された精進料理です。一度に何百人もの人が食事をしますので会場は狭苦しく感じましたが、料理はおいしくいただきました。その後は、諸堂拝観、記念写真と進み、午後2時から法要に参列しました。広い法堂(はつとう)に5百人の檀信徒と僧侶が出頭し、約1時間にわたって法要が営まれました。開山

さまの50年に一度の法要に巡り会えたこのご縁に感謝申し上げます、開山さまの功德をたたえる法要でした。

お泊まりは、雄琴温泉の琵琶湖グランドホテルです。夜には大広間で大宴会となりお互いに親睦を深めたひとときとなりました。

翌日は、岐阜県美濃加茂市伊深町にある正眼寺(しょうげんじ)をめざしました。ここ伊深町は、開山さまが妙心寺へ来られるまでのあいだ修行された地です。昼間は村人の農作業や牛の世話を手伝われ、夜は坐禅などの修行に打ち込まれたといえます。その地に、正眼寺というお寺が建立され、現在も大変厳しい修行道場としてその名は広く知られています。法要の後は、その修行の場である僧堂も見学させていただきました。初めてみる修行の場に、皆さんは興味深く説明を聞かれました。

遠諱団参は終わりましたが、まだまだ本山ではいろいろな行事が企画されているようです。年間を通して多くの人が参加されることを願ってやみません。参加された皆様には、お疲れ様でした。

愚痴を感謝の心に転じましょう

本山布教師さんのお話を聴きました



▲本山布教師による定期巡教＝3月17日、本堂

耳を傾けました。

師は、仏典や論文など難しいことの引用を避け、師の経験などを交えながら話され、とてもわかりやすい法話でした。最後には「愚痴の心を感謝に変えることが、開山さんの『其の本を務めよ』ということになるのでは」と結ばれました。また、新聞に掲載された歌をいくつか紹介されました。その一つ「十指

みな揃い
てきよう
も農に生
く」に
は、感謝

の気持ち
が満ちあふ
れているこ
と、そして、感謝と
愚痴は紙一
重であるこ
とを説かれ
ました。

妙心寺から派遣されて来られる布教師さんの法話を、去る3月17日の午後2時より開教いたしました。今年の布教師さんは、出雲市から来られた岩浅宏志師(いわあさこうし/大龍寺ご住職)で、「請う其の本を務めよ」と題して約90分話していただきました。平日にもかかわらず28人の老若男女が



お釈迦様の誕生日を祝って甘茶をそそぎました

5月5日に花祭りを行います。花祭りは、仏誕生会(ぶつたんじょうえ)とか降誕会(ごうたんえ)、または灌仏会(かんぶつえ)ともいわれ、本来は4月8日に行う行事です。松禪寺では先住の時代から子どもの日である5月5

日に行っています。釋尊のお誕生日で、これを記念し仏徳をたたえ供養する大切な行事です。おおむね午前10時から午後5時頃まで、本堂前に花御堂を置き、お参りの方には誕生仏に甘茶をそそいでもらい、甘茶を飲んでいただきました。昔は近所の子どもたちが多く集まりましたが、近年はぐんと減りました。それでも年配の方々も懐かしいと甘茶を飲んで行かれます。仏教徒としても大切な行事ですから、例えお参りの方が減つてもこれからも続けなければならぬ行事の一つです。

松禪寺霊園に観音堂建立



松禪寺の境内墓地内に観音堂が建ちました。これは、佐田の平石貞雄さん夫妻が墓地造成記念として同家で祀られていた観音像とお

堂を寄付されたもので、去る3月15日に各総代さんの手によって移動され、その後お堂の洗浄や修理を行い、4月24日に開眼供養を行いました。法要には総代さんのほか墓地契約者の皆さんにも参加していただきました。今後は、霊園の本尊として観音様の聖なる眼が日の如く三千を照らしてください。松禪寺へお越しの際には、ぜひお参りください。

釈尊のお誕生日を祝いました

境内地の静寂に心やすらぐ墓地

松禪寺霊園のご案内

現在、松禪寺の檀家または今後檀家になっていただけの人を対象に、松禪寺霊園の利用者を募集しています。

◎申込はどうするの？

墓地の使用を希望する人は、「墓地使用权取得申請書」を松禪寺に提出して許可を受けなければなりません。なお、墓石の設置、字彫り、埋骨等を含む墓地の管理

に関わる一切の行為は、松禪寺が指定する業者に限ります。

◎墓地の区画の広さは？

墓地の使用は、使用を許可した一世帯につき1区画を標準とし、5.4㎡(3.3m×1.8m)です。全部で18区画あります。

◎使用料はいくらですか？

1区画が30万円です。別途、縁石代として20万円が必要です。

◎使用料以外の経費は？

1区画あたり年額5千円を納めていただきます。10年を限度として前納も可能です。

◎永代使用と聞きましたが

許可なしに使用权を譲渡あるいは転売したり、他の宗教に転じて檀家でなくなったり、そのほか規則に違反したときは使用許可を取り消します。墓地の返還は、使用者が現状に復して返還しなければなりません。

◎お問い合わせは

松禪寺かお近くの総代さんにお問い合わせください。



山陰東教区第26回坐禅会のご案内

坐禅を体験しませんか

山陰東教区主催の第26回坐禅会が次のとおり開催されます。この機会に坐禅を体験しませんか。妙心寺山内の霊雲院ご住職・則竹秀南老大師の法話もあります。



日時：6月6日(土) 午後1時半

申込：5月30日(土) までに松禪寺まで。

写経会に

ご参加ください

松禪寺では毎月24日の午前中に写経会を行っています。どなたでもご自由に参加できます。

【ご案内】

実施日：毎月24日。午前10時～11時ぐらいまで

場所：松禪寺本堂にて

納経料：1千円

◎「般若心経」の写経です。薄く印刷されたお経の字にしたがって書写する初心者用です。

◎本来は筆で書くものですが、初めは鉛筆や筆ペンで書いても構いません。形式よりも真心が大切なのです。また、筆や硯の準備もできませんが、使い慣れたご自分のものをご持参いただいても結構です。

◎写経用紙は松禪寺でご用意いたします。

